

カノン

第1から第5歌頌は、月課経から聖人のカノン（イルモス+トロパリ5、合計6）、その教会の聖人のカノン（4句）。イルモスを歌ったあと、冠詞なしでトロパリを唱える。残りのトロパリに「諸預言者歌頌」（連接歌集 P2278）から最後の6句をつけて唱え、最後は「光栄は」、「今も」に続いてトロパリ。

第6歌頌以降は、教会の聖人のカノンは省き、月課経の聖人の第1のカノンから6句、三歌斎経のカノンを2つ（イオシフの、フェオドルの）から8句と付加された致命者と死者のトロパリ2句。「諸預言者歌頌」（連接歌集 P2278）全文はとなえずに、最後の6句（8段にと記載があるところ）を付して三歌斎経のカノンのトロパリを唱える。

ここでは、ミネヤがないので、第1から第5歌頌は省略。第6歌頌、イオシフのカノンのイルモスは読み、フェオドルのカノンのイルモスのみ歌う。

第2週土曜日

第6歌頌 三歌斎経 連接歌集 <イオシフのカノン八調>

（イルモス）我禱を主の前に漙ぎ、我が憂を彼に告げん、我が霊は悪に満ち、我が生命は地獄に近づきたればなり、我イオナの如く祈る、神よ、我を淪滅より引き上げ給へ。（楽譜なし）
我が首は巖の間を潜り、我地の中に下れり、其永遠の關は我を閉せり。

救世主よ、聖なる者は最多くの苦を以て千萬の敵を斃して、爾の多くの福を獲たり。求む、仁慈なる主として、彼等の祈禱に由りて我が多くの罪過を潔め給へ。

主我が神よ、願はくは我が生命は淪滅より爾に上げられん。

我等ハリストスの受難者を歌ひて、同心に彼等に呼ばん、主宰の苦に效ひし者よ、我等の霊の諸慾を醫して、悪しき習を齋まん爲に我等を堅め給へ。

我が霊我を離れんとする時、我主を記愈せり。

救世主よ、爾は死を寢に變じ、墓に寝ぬるを忍びて、死者に生命を賜へり。求む、聖なる受難者の祈禱に因りて、世を逝りし者に選ばれたる者と偕に立つを得しめ給へ。

願はくは我が禱は爾に至り、爾の聖なる殿に至らん。

生神女讚詞、全能にして無垢なる言、身を取りし主を言ひ難く生みたる純潔なる少女よ、我に齋して凡の罪より離れん爲に力を授けて、我が汚を潔むる涙を與へ給へ。

イルモス、「諸慾の深處は我を沈め」。

<フェオドルのカノン 3調>

虚しくして偽なる處神を敬ふ者は己の矜恤者を棄てたり。

我等は敬虔に致命者の記憶を行ふ。致命者を愛する者よ、來りて喜び、歌を以て彼等を尊みて、彼等に勝利を賜ひしハリストスを崇め讃めん。

然れども我讚美の聲を以て爾に祭を獻げん、我が誓ひし事は爾主に我が救の為に之を償はん。

受難者よ爾等は先に傷の試を受け、其後石にて撃たれ、鋸にて解かれ、猛獸の食に昇へられ、ハリストスの羔として屠られたり、然れども爾等常に生く。』

光榮は父と子と聖神に歸す

[三者讚詞] 我三位を一性に合せ、一性を三位に分つ、斯く三位一性の神を承け認めて、同じくサウェリイ及びアリイの懸崖を避く。

今も、何時も世々にアミン

[生神女讚詞] 爾は産の後にも童貞女と現れたり、斯く童貞を守り、又子を生み給へり、神の母よ、爾に於て行はれし事は實に異常なる事なり。

我等の神よ、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す。

或は句、神よ、爾は爾の聖所に於て嚴なり。

[致命者讚詞] 致命者よ、爾等の忍耐の血は斷えず我等の爲に主に祈る、故に今も我等が恥づべき諸愆を齋まんことを祈り給へ。

句、彼等の靈は福に居らん。

死者の讚詞、至りて洪恩なる主よ、萬萬の天使が前に立ちて、爾が全世界を審判する時、寢りし者に定罪せられずして爾の前に立つを得しめ給へ。

(詠) (イルモス) 諸愆の^{ふかみ}深處は我を沈め、逆風の^{あれ}凶暴は起こりて我を攻む。救世主よ、急ぎて我を救ひ、預言者を^{ほろび}猛獸より救ひし如く、我を^{ほろび}淪滅より脱がれしめ給へ。

第6歌頌



諸あくの^{ふかみ}深處は我をしずめ、逆風の^{あれ}凶暴は起こりて
 我を攻む。救世主よ、いそぎて我をすくい、
 預言者を猛獸より救いしごとく我を^{ほろび}より
 のがれしめたまえ。

[小連絡]

輔祭 我等復又^{またまた}安和にして主に祷らん、 (詠) 主憐めよ
 輔祭 神よ、爾の恩寵を以て、我等を^{たす}助け救ひ憐み護れよ、 (詠) 主憐めよ
 輔祭 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、
 諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に^{おのおの}各の身を以て、^{ならび}并に^{ことごと}悉くの我等の

生命^{いのち}を以て、ハリストス神に委託せん、(詠) 主爾に
 司祭 蓋^{けだし}爾は我等の神なり、我等光榮を爾父と子と聖神^{いつ}に獻ず、今も何時も世世に、
(詠) 「アミン」

[コンダク]

(詠) ハリストスよ、爾が諸僕^{たましい}の靈^{たましい}を諸聖人と偕^{とも}に、疾^{やまい}も悲^{かなしみ}も歎^{なげき}もなく、惟^{ただ}終^{おわり}なき生命^{いのち}の在る處に安んぜしめ給へ。」

死者のコンダク 6 調

ハリストスよ、なんじが 僕婢の たましいを、
 諸^{せい}聖人とともに、 やまいも かなしみも
 なげきもなく、 おわりなき いのちの
 あるところに、 やすんぜしめ たまへ、

第7歌頌

イルモス、「エウレイの少者は爐に在りて勇ましく焰を踐み、火を露に變じてよべり、主神よ、爾は世々に崇め讃めらる。」(楽譜なし)

主我が先祖の神よ、爾は崇め讃められ、世々に尊まれ、讃め揚げらる、

至榮なる主の受難者よ、爾等は血の雨を以て迷の焰を滅し給へり。祈る、ハリストスに奉る祈禱を以て我等を將來の火より救ひ給へ。

爾の光榮にして聖なる名も崇め讃められ、世々に尊まれ、讃め揚げらる。

獅子の口を塞ぎ、苦の火を忍びし受難者よ、爾等は天上の福樂を嗣ぎ給へり、我等にも之を得しめんことを恒に祈り給へ。

爾は聖なる爾の光榮の殿に崇め讃められ、世々に尊まれ、讃め揚げらる。

盛に神の光に照されたる勇敢なる受難者よ、世を逝りし信者の爲に罪の赦と、樂園に入ることと、生命に與ることとを求め給へ。

ヘルウィムに坐し、淵を鑑みる者よ、爾は崇め讃められ、世々に尊まれ、讃め揚げらる。

【生神女讃詞】童貞女よ、我歌を爾に奉る、諸惡に制せらるる我を棄つる勿れ。潔き者よ、我に齋に由りて全き革新と善良なる度生とを與へ給へ。

爾は光榮なる爾の國の寶座に崇め讃められ、世々に尊まれ、讃め揚げらる。

受難者よ、爾等は苦しめらるる時苛虐者を驚かして、火と劔と猛獸とを慰と爲して、我が先祖の神を歌へり。

爾は天の穹蒼に崇め讃められ、世世に尊まれ、讃め揚げらる。

ハリストスの致命者よ、爾等は肢體を寸斷せられ、火に焚かれて、馨しき祭として神に捧げられたり。求む、常に我等の爲に彼に祈り給へ。

光榮、

[三者讃詞] 三位に於て惟一なる神、父、子、聖神、単一の神性、尊き三者、無原の原始を讃榮す。

今も。

[生神女讃詞] 至聖なる女宰生神女よ、爾の諸僕の祈禱を納れて、之を萬有の神に捧げ給へ、我等を凡の誘惑より救はん爲なり。

句、地上の聖人と爾の奇異なる者とは、我専ら之を慕ふ。

[致命者讃詞] 致命者の會よ天より臨みて、爾等を歌ふ我等を熱心に齋の時を終へん爲に祝福して聖にし給へ。

句、主よ、爾が選び近づけし者は福なり。

[死者の讃詞] 人人の行爲を知る主よ、信を以て爾に移りし者に、神として、自由と不自由との罪を宥して、彼等を安ぜしめ給へ。

(詠) **爐の焰に露を注ぎ、少者を焚かるるなく救ひし主、吾が先祖の神よ、爾は世世に崇め讃めらる。**

第7歌頌

いろり 爐のほのおに 露をそそぎ、少者を焚かるるなく
すくいし主 吾が先祖のかみよ、
爾は世世にあがめほめらる。

第8歌頌

(イルモス) 爾の誠に熱中せし少者は、爾の恩寵に因りて、窘迫者及び火焰に勝つ者と為りてよべり、主の悉くの造物は主を崇め讃めよ。

天の諸の鳥と、野獸と、一切の家畜は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

柔弱の肉體を以て種種の苦を忍びし受難者よ、爾等は病む者の爲に醫師と現れたり。故

に我呼ぶ、我が傷める靈を齋の時に痛悔を以て醫し給へ。

人の諸子と、イズライリ民は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。

哀しい哉我や、如何ぞ我が在世の日は怠惰の中に過ぎたる、視よ、終は近づきて、我善行の無き者を受けんことを急ぐ。善く馳すべき程を盡しし致命者よ、我に善き終のあらんことを祈り給へ。

主の司祭と、主の諸僕は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。

血の滴りを以て無神の火を滅しし神聖なる受難者よ、此の生より移りたる者の爲に其行ひし諸罪の釋かるることと神聖なる永遠の安息とを求め給へ。

諸神と諸聖人の靈、諸義人と心の謙卑なる者は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

[生神女讃詞] 潔き者よ、イエゼキイリは爾を過られぬ門、凡そ望を失ひし者の爲に痛悔の門を啓く者として預見せり。故に我爾に祈る、彼の安息に到らしむる途を我が爲に啓き給へ。

又、イルモス、「無原なる父より」。

アナニヤ、アザリヤ、ミサイルは主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

受難者よ、爾等は多方の苦を種種に受けて、或者は焚かれ、他の者は鋸にて解かれ、又他の者は斬られて、楽しみて歌へり、ハリストスを崇め歌ひて、萬世に讃め揚げよ。

主の諸使徒、預言者、致命者は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

至りて讃美たる致命者よ、爾等は己の血を以て四極を聖にし、其僅少なる滴を以て衆に醫治の流を注ぐ。故に爾等常に呼ぶ、ハリストスを崇め歌ひて、萬世に讃め揚げよ。

我等主なる父と子と聖神^oとを崇め讃めん、

[三者讃詞] 三位なる惟一者、父子生活の神、惟一の神性、惟一の權柄よ、天使の軍は爾暮れざる光を崇め讃む、我等地に在る者も爾を崇め歌ひて、萬世に讃め揚ぐ。

今も何時も世世に、「アミン」。

[生神女讃詞] 至浄なる者よ、視よ、我等萬族は爾の至大なるを見て、爾を福なりとす、蓋爾は性に超へて萬物の造成主神及び人を生み給へり。故に我等爾を崇め歌ひて、萬世に讃め揚ぐ。

句、神よ、爾は爾の聖所に於て嚴なり。

受難者の會よ、救世主に祈りて、我等が今祈禱と節制とを以て潔く彼に奉事して救を得んことを求め給へ。主を崇め歌ひて、萬世に讃め揚げよ。

句、彼等の靈は福に居らん。

主よ、復活の望を抱きて敬虔に寝りし者に永遠の生命の爲に起きて潔く爾を讃美し、聖詠者の如く爾を讃榮するを得しめ給へ。主を崇め歌ひて、萬世に讃め揚げよ。

我等主を讃め、崇め、伏し拜みて、世世に歌ひ讃めん。

(詠) 無原なる父より世世の^{まゝ}前に生まれし神、末の日に生神女に^よ藉りて肉体を^ま衣たる主を、全き人及び真の神として崇め歌ひ、萬世に讃め揚げよ。

第8歌頌

我等神を^ほ讃め^{あが}崇め伏し拝みて 世々にうたーい 讃めん。
 無原なるちちより、 世世の^{さき}前に生まれし かーみ
 末の日に 生神女によーって、 肉体を衣たる主ーを、
 まったき人 および まことのかみとして、 崇めうたい、
 萬世に^{ほんせい} 讃めーーあーげよ。

司祭 生神女光の母を讚歌を以て讚め揚げん。
 (詠) [ヘルビムの歌]

我が心は主を崇め、我が^{たましい}靈は神我が救主を悦ぶ。

附唱 ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え、^{みさお}貞操を破らずして^{かみことば}神言を^ほ生みし、^{ほんせい}実の生神女たる爾を崇め讚む。

第1句

我が心は主を あがめ 我が靈は神我が救主を 喜こーぶ
 附唱
 ヘルビムより 尊とく セラフィムに並びなく さかえ 貞操を
 破らずして神言を 生みし 実の生神女たる 爾をあがめ 讚む

第2句 その婢の卑しきを願^{かえり}み給へり、今より萬世我を福なりと言はん、

→附唱ヘルビムより尊く

第3句 ^{ちから}権能を持ち給へるものは、我が為に大なる事を為せり、其の名は聖なり、其の憐れみ

は世世 彼を畏るる者に臨まん

→附唱 **ヘルビムより尊く**

第4句 其の肘の力を表して、心の驕れるものを散らし給へり、

→附唱 **ヘルビムより尊く**

第5句 権ある者を位より斥け、卑しき者を上げ、飢うる者を善に飽かせ、富める者をむなしく帰らせ給へり。

→附唱 **ヘルビムより尊く**

第6句 其の僕、イスライリを納れて、我が先祖に告げしが如く、

アウラムと其の裔を世世に憐れむ事を記憶し給へり、 →附唱 **ヘルビムより尊く**

第9歌頌

イルモス、「生神女よ、爾は性の法則に超えて、造成者及び主を孕みて、世界の為に救の門と為り給へり、故に我等常に爾を崇め讃む。(楽譜なし)

其聖なる約、即我が祖アウラムに矢ひたる誓を記念せん、

勇敢なる受難者、我等の心の光明なる嚮導師よ、爾等は神聖なる熾炭と現れて、無神の悪なる物質を焚き、劔を以て悪鬼の軍を斬り給へり。

謂ふ、我等に我が諸敵の手より救はれし後、懼なく、彼の前に在りて、聖を以て、義を以て、生涯彼に事へしめんと。

勇敢なる受難者よ、爾等は苦の暗を過りて、無形の光に移れり。求む、罪惡に味まされたる我が卑微なる靈を照し給へ。

子よ、爾も至上者の預言者と称へられん、

至榮なる受難者は肉體の苦を病みたるに因りて、今は世を逝りし信者の爲に病なき安息と樂園の樂とを求む。

蓋主の面前に行きて其道を備へ、彼の民に、其救は即諸罪の救にして、我が神の矜恤に因ることを知らしめん。

[生神女讃詞] 潔き女幸よ、爾の不當なる諸僕の爲に神聖なる扶助者と現れて、節制の時に我等の禱を世世を幸る主に捧げ給へ。

又、イルモス、「我等は爾不死の泉」

此の矜恤に因りて、東旭は上より我等に臨めり、幽暗と死の蔭とに坐する者を照し、

ハリストスの受難者よ、爾等は神より火の如く地上に置かれて、凡の偶像の迷を焚き、四極に敬虔の燈を燃し給へり。

我等の足を平安の道に向はしめん為なり。

受難者よ、火燄も、屠殺も、刃輪も、百體の斷たるることも、鐵塔も、其他の劇しき苦も爾等をハリストスの愛より離さざりき。

光榮は父と子と聖神に帰す、

[三者讃詞] 我敬虔の心を抱きて唯一の神性及び三位を歌ひて、位を異にすと雖、敢て神性を分離せず、蓋父子及び聖神は唯一の神なり。

今も何時も世々にアミン

[生神女讃詞] 純潔なる童貞女よ、我等は爾イエッセイの根及び太祖ダウィドより生ぜし華さきたる杖を崇め讃む、爾我等の靈を救ひ給へばなり。

句、地上の聖人と爾の奇異なる者とは、我専ら之を慕ふ。

致命者の尊き大數よ、ハリストスに祈りて、我等が平安に齋の途を経て、彼の苦を見、之に伏拜するを得んことを求め給へ。

句、主よ、爾が選び近づけし者は福なり。

死者及び生者の神として、死を死し、己の復活を以て衆に生命を賜ふハリストスよ、移しし爾の諸僕をも安ぜしめ給へ。

(詠) 我等は爾不死の泉、諸聖者を以て人類に^{いやし}醫治を賜ふものを常に崇め讃む、爾我等の靈を救ひ給へばなり。

第9歌頌

我等は爾 不死の いずー み、 諸聖者を以ー て
人類に^{いやし}醫治を賜うものを、 常に^{あが}崇め^ほ讃む、
爾我等の^{たましい}靈を救い 給へば なー り。

9歌頌イルモスに続いて

(詠) [常に福] 常に福にして、全く玷なき生神女、我が神の母なる爾を讚美するは真に当たれり、ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく榮え、貞操を^{みさお}破らずして神言を^{かみことば}生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。

[光耀歌]

第3週土曜日

第6歌頌 三歌齋經 連接歌集 <イオシフのカノン4調>

(イルモス)「我海の深處に至り、多くの罪の暴風は我を沈めたり、慈憐の主よ、神なるに因りて、我が生命を深處より引き上げ給へ」(楽譜なし)

我が首は巖の間を潜り、我地の中に下れり、其永遠の關は我を閉せり。

至榮なる受難者よ、爾等は血の滴を以て敬虔者の心を潤し、不敬虔者の軍を其中に溺らし給へり。

主我が神よ、願はくは我が生命は淪滅より爾に上げられん。

信者の光榮及び大なる保護者たる受難者よ、爾等は己の百體を以て光榮を萬有の主宰に歸せしに因りて、今絶えず榮せらる。

我が靈我を離れんとする時、我主を記念せり。

深き坎に置かれし言よ、信を以て死せし者に、聖にせられし受難者の祈禱に由りて、罪の赦と安息とを與へ給へ。

願はくは我が禱は爾に至り、爾の聖なる殿に至らん。

[生神女讃詞] 童貞女よ、我等が黙さざる聲を以て爾を崇め讃めん爲に、我等の此の聲を納れて、我等に罪債の赦を賜はんことを爾の子に祈り給へ。

<フェオドルのカノン 8 調>

イルモス、「人を愛する主よ、我多くの罪に圍まれて」

虚しくして偽なる處神を敬ふ者は己の矜恤者を棄てたり。

今は致命者の慶賀なり、我等趣り集まりて、彼等の至りて尊き苦を讃揚して、之に榮冠を冠らせしハリストスを歌頌せん。

然れども我讚美の聲を以て爾に祭を獻げん、我が誓ひし事は爾主に我が救の爲に之を償はん。

福たる致命者よ、爾等はハリストスを愛する神聖なる愛に燃されて、熾炭を露の如く履みて、彼を歌へり。

光榮は父と子と聖神に帰す

[三者讃詞] 至りて無原なる三者、及び神聖なる惟一者よ、我爾一光と三光、三一の生命、智慧、言、聖神たる唯一の聖なる神を歌ふ。

今も、何時も世々にアミン

[生神女讃詞] 先祖イエッセイよ、慶べ、爾の根より生命の華として、潔き童貞女より世界を救ふハリストス神は輝き出でたり。

句、神よ、爾は爾の聖所に於て嚴なり。

我等の神よ、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す。(或は句、神よ、爾は爾の聖所に於て嚴なり)

[致命者讃詞] 福たる者よ、爾等はハリストスに堅められ、火と劍と死とを畏れずして、救の承認を守り給へり。

句、彼等の靈は福に居らん。

死者の中に自由に入り給ひし仁愛なる主よ、生と死との宰として、受けし者を安ぜしめて、爾の庭に居らしめ給へ。

(詠) (イルモス) 人を愛する主よ、我多くの罪に圍まれて、爾の洪恩に趨り附く者を受けて、預言者の如く我を救ひ給へ。(楽譜は次ページ)

第6歌頌



ひとを 愛する 主よ われ 多くの罪にかこまれて
 なんじの 洪恩こうおんに 趨まよりつくものを受けて、
 預言者のごとく 我等を すくいたまえ 小連禱 コンダクへ

[小連禱]

輔祭 我等復またまた又安和あんわにして主に禱らん、 (詠) 主憐めよ
 輔祭 神よ、爾の恩寵を以て、我等をたす助け救ひ憐み護れよ、 (詠) 主憐めよ
 輔祭 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、
 諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互おのおのに 各の身を以て、并ならびに 悉ことごとくの我等の
 生命いのちを以て、ハリストス神に委託せん、 (詠) 主爾に
 司祭 蓋けだし爾は我等の神なり、我等光榮を爾父と子と聖神^oに獻ず、今も何時も世世に、
 (詠) 「アミン」

[コンダク]

(詠) ハリストスよ、爾が諸僕たましいの 靈たましいを諸聖人とともに、疾やまいも 悲かなしみも 歎なげきもなく、惟ただ終おわりなき生命いのちの在る處に安んぜしめ給へ。」

死者のコンダク 6調



ハリストスよ、なんじが 僕婢の たましいを、
 諸聖人とともに、 やまいも かなしみも
 なげきもなく、 おわりなき いのちの
 あるところに、 やすんぜしめ たまえ、

第7歌頌

イルモス、「三人の少者はワフィロンに於て窘迫者の命令を空言と為して、焰の中に呼べり、

主我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。」(楽譜なし)

主我が先祖の神よ、爾は崇め讃められ、世々に尊まれ、讃め揚げらる、

靈よ、爾は無知なる慾を愛して、實に誰に似たる者と爲りしか、誰か諸罪を以て爾に超ゆる者ある。ハリストスに呼べ、仁慈なる主よ、我を救ひ給へ。

爾の光榮にして聖なる名も崇め讃められ、世々に尊まれ、讃め揚げらる。

聖なる者よ、聖者の中に息ひ給ふ主に、此の聖なる諸日に於て衆敬虔者の思を聖にせんことを切に祈り給へ。

爾は聖なる爾の光榮の殿に崇め讃められ、世々に尊まれ、讃め揚げらる。

至上者、仁慈に富める至善なる主よ、先に寝りし爾の諸僕に赦を與へて、之を義人等の會に加へ給へ、爾は人を愛する主なればなり。

ヘルウィムに坐し、淵を鑑みる者よ、爾は崇め讃められ、世々に尊まれ、讃め揚げらる。

[生神女讃詞] 潔き者よ、爾は性の法に由らずして、人と爲りし造物主を生み給へり。彼に今衆人の不法と諸罪とを見ざらんことを祈り給へ。

又、イルモス、「天使を以て少者を火より救ひ」

爾は光榮なる爾の國の寶座に崇め讃められ、世々に尊まれ、讃め揚げらる。

尊き致命者の記憶を爾の教會の喜悅及び靈の安慰と爲しし主吾が先祖の神よ、爾は世々に崇め讃めらる。

爾は天の穹蒼に崇め讃められ、世々に尊まれ、讃め揚げらる。

ハリストスよ、我等は爾に譎らず、爾を諱まずと、致命者は苦の中に呼びて、不法なる審判者を驚かしたり。主吾が先祖の神よ、爾は世々に崇め讃めらる。**光榮、**

[三者讃詞] 我等は三位の中に唯一の神性たる父と子と聖神とを尊みて、預言者の如く呼ぶ、主吾が先祖の神よ、爾は世々に崇め讃めらる。

今も何時も世々にアミン

[生神女讃詞] 如何ぞ爾は母として生みて、童貞女に止まる。蓋我は神を生めり、其狀を、我に問ふ勿れ、彼欲する所を行へばなりと、神女は呼ぶ。

句、地上の聖人と爾の奇異なる者とは、我専ら之を慕ふ。

[致命者讃詞] 神の選びたる致命者の會よ、爾の諸僕に救世主の神聖にして生命を施す十字架に伏拜する者となるを得しめ給へ。

句、主よ、爾が選び近づけし者は福なり。

[死者の讃詞] 生命の寶藏たる不死の王よ、信と望とに於て移しし爾の諸僕に爾の永遠の生命を得しめ給へ。

(詠)(イルモス) **天使を以て少者を火より救ひ、鳴れる爐の燄を露に變ぜし吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。(楽譜次ページ)**

第7歌頌



天使を以て少者^{しょうしや}を火よりすくい
 鳴れる^{いろり} 炉^{ほの}の焰^{のち}を露に変ぜし我が先祖のかみよ、
 爾は崇め讃めーらる。

第8歌頌

(イルモス)「衆人の贖罪主全能者よ、爾は降りて、焰の中に敬虔を守りし者に露を注ぎて、歌はしめ給へり、悉くの造物は主を歌ひて崇め讃めよ。」(楽譜なし)

天の諸の鳥と、野獣と、一切の家畜は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

致命者よ、爾等は畏なき思を以て傷ましき苦勞に進みて、肉體の傷を忍びしに由りて、傷なき樂に移りて、凡の心の傷を醫し給ふ。

人の諸子と、イスライリ民は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。

上なる事を以て朽つべき事に代へたる神聖なる致命者よ、萬衆の神に祈りて、我肉慾に由りて朽ちたる者を齋と爾等の熱切なる祈禱とを以て救ひ給へ。

主の司祭と、主の諸僕は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。

ハリストスよ、爾の致命者の祈禱に由りて、爾の仁慈を衆に降して、生命より爾慈憐なる主に移りし者に罪債の赦と神聖なる安息とを與へ給へ。

諸神と諸聖人の靈、諸義人と心の謙卑なる者は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

[生神女讃詞] 生神女よ、罪なき神を生みし者として、爾の母たる祈禱を以て我が諸罪を解きて、我等を救ひて呼ばしめ給へ、主の悉くの造物は主を崇め讃めよ。

イルモス、「神を傳ふる少者は爐の中に」

アナニヤ、アザリヤ、ミサイルは主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

受難者よ、爾等は火の苦しみを露の沾濕の如く忍びて、喜を以て呼べり、主の造物は主を崇め讃めよ。

主の諸使徒、預言者、致命者は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

神の軍士たる致命者の隊は誘惑に勝ちて、凱旋して呼べり、主の造物は主を崇め讃めよ。

我等主なる父と子と聖神^oとを崇め讃めん、

[三者讃詞] 我等皆子と侘しく父及び至聖なる神に伏拜して、忠信に呼ばん、惟一者にある三者よ、我等の靈を救ひ給へ。

今も何時も世世に、「アミン」。

[生神女讃詞] 純潔なる者よ、爾は童貞女及び母と顯れて、夫なく萬衆の神を生み給へ

り。求む、爾の諸僕を救はんことを彼に祈り給へ。

句、神よ、爾は爾の聖所に於て嚴なり。

ハリストス救世主よ、爾の受難者の祈禱に因りて、爾の諸僕に爾の仁慈の記號たる生命を施す十字架を見て、之に伏拜するを得しめ給へ。

句、彼等の靈は福に居らん。

爾の死より起くるを以て死の權を破りし主よ、移りし者を爾の選びたる者と共に安ぜしめ給へ、彼等が爾主を崇め讃めん爲なり。

我等主を讃め、崇め、伏し拝みて、世世に歌ひ讃めん。

(詠) 神を傳ふる少者は爐の中に焰を踏みて歌へり、主の造物は主を崇め讃めよ。

第8歌頌

我等主を崇め讃め、伏し拝みて世世に うたい讃めん

神を傳ふる少者は 炉のうちに 焰を踏みてうたえり

主の造物は主を あがーめ 讃めよ ヘルビムよりへ

司祭 生神女光の母を讃歌を以て讃め揚げん。

(詠) [ヘルビムの歌]

我が心は主を崇め、我が靈は神我が救主を悦ぶ。

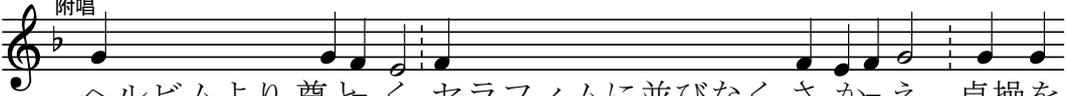
附唱 ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく榮え、貞操を破らずして神言を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。

第1句



我が心は主を あがめ 我が霊は神我が救主を 喜こぶ

附唱



ヘルビムより尊とく セラフィムに並びなくさかえ 貞操を



破らずして神言を生みし 実の生神女たる 爾をあげ讃む

第2句 その婢の卑しきを願^{かえり}み給へり、今より萬世^{よろずよ}我を福なりと言はん、 →附唱 **ヘルビムより尊く**

第3句 権能^{ちから}を持ち給へるものは、我が為に大なる事を為せり、其の名は聖なり、其の憐れみは世々 彼を畏る者に臨まん →附唱 **ヘルビムより尊く**

第4句 其の肘^{おこ}の力を表して、心の驕れるものを散らし給へり、 →附唱 **ヘルビムより尊く**

第5句 権ある者を位より斥け、卑しき者を上げ、飢うる者を善に飽かせ、富める者をむなく帰らせ給へり。 →附唱 **ヘルビムより尊く**

第6句 其の僕、イスライリを納れて、我が先祖に告げしが如く、アウラムと其の裔を世々に憐れむ事を記憶し給へり、 →附唱 **ヘルビムより尊く**

第9歌頌

イルモス、「エワは不順を病みて、詛を入れたり、爾は、童貞生神女よ、己の産にて世界の為に祝福の華を發けり、故に我等皆爾を崇め讃む」（楽譜なし）

其聖なる約、即我が祖アウラムに矢ひたる誓を記念せん、

受難者よ、爾等は神靈の石の上に智慧を動なく固めて、諸敵の悉くの悪計に勝ちたり。求む、我靈を害する諸慾に傾けらるる者を神に捧ぐる祈禱を以て固め給へ。

謂ふ、我等に我が諸敵の手より救はれし後、懼なく、彼の前に在りて、聖を以て、義を以て、生涯彼に事へしめんと。

神聖にして實に輝ける致命者の會よ、至仁なる主宰に、節制の時に於て我等衆に諸罪の赦と永遠の喜とを賜はんことを祈り給へ

子よ、爾も至上者の預言者と称へられん、

仁愛にして獨至善なる主よ、復活の望を抱きて寝りし爾の諸僕に爾の暮れざる永遠の光及び樂の糧に與るを得しめ給へ、我等が慎みて爾を崇め讃めん爲なり。

蓋主の面前に行きて其道を備へ、彼の民に、其教は即諸罪の赦にして、我が神の矜恤に因ることを知らしめん。

[生神女讃詞] 純潔なる者よ、至聖なる爾の腹は光の居處と爲れり。故に我熱信に爾に呼ぶ、吾が靈の眸子を照して、常に爾を讃揚する者に直き道を示し給へ。

イルモス、「我等爾神の母を讚美し」

此の矜恤に因りて、東旭は上より我等に臨めり、

信者よ、我等は致命者の記憶を行ふ、彼等の戦の苦を崇め讃めて、其光榮に與るを得ん爲なり。

幽暗と死の蔭とに坐する者を照し、我等の足を平安の道に向はしめん爲なり。

爾等の勇敢に因りて猛獸は甚く畏れ、火は滅え、弓は折られたり。受難者よ、神は爾等の中に奇異なり。

光榮は父と子と聖神に帰す

[三者讚詞] 至りて無原なる神性、三位の唯一者、父、子、及び聖なる神、光及び神元の生命よ、爾を讚榮する者を護り給へ。

今も何時も世々にアミン

[生神女讚詞] 我等は爾イズライリの神、童貞女より世界に現れて、我等の救の角を興しし主を崇め讃む。

句、地上の聖人と爾の奇異なる者とは、我専ら之を慕ふ。

世界の祈禱者、ハリストスの受難者よ、爾等の祈禱を以て衆に彼の十字架を見て伏拜するを得しめ給へ。

句、主よ、爾が選び近づけし者は福なり。

神の子よ、生命の泉の涌き、爾の顔の光の輝く處に爾に移りし者を納れ給へ。

(詠) 我等爾神の母を讚美し、爾生神童貞女を讚榮す、我が靈の救主を生み給ひしに因る。

第9歌頌

我等 爾神の母を 讚美し、 なんじ 生神童貞女を
 讚 榮 す 我が靈の救主を生み たまいし による 小連禱へ

9歌頌イルモスに続いて、通常の

(詠) [常に福] 常に福にして、全く玷なき生神女、我が神の母なる爾を讚美するは真に当たれり、ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく榮え、貞操を破らずして神言を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。

[光耀歌へ]

* * * * *

第4週土曜日

第6歌頌 **三歌斎経 連接歌集** <イオシフのカノン4調>

(イルモス)「我行を以て世俗の淵に沈み、地獄に降りて、イオナが鯨よりせし如く、斯く呼ぶ、神の子及び言よ、祈る、我を諸悪の深處より引き上げ給へ。」(楽譜なし)

我が首は巖の間を潜り、我地の中に下れり、其永遠の關は我を閉せり。

受難者よ、爾等は多くの忍耐を以て肉體の界を踰えて、諸の苦及び痛傷を忍び給へり。故に爾等を歌頌する者の凡の病を醫し、憂を解き給ふ。

主我が神よ、願はくは我が生命は淪滅より爾に上げられん。

聖なる受難者の軍は天使の萬萬に合せられて、ハリストスの悦を得たる者として、至仁なる神に我等を無数の諸罪より救はんことを祈る。

我が靈我を離れんとする時、我主を記念せり。

ハリストスよ、爾は殺されて墓に寝ねて、死者を起し、信に於て死せし者に恩寵の富として、諸聖人と偕に安息を給ふ。

願はくは我が禱は爾に至り、爾の聖なる殿に至らん。

[生神女讚詞] 潔き者よ、神の言及び神は人を神成せんと欲して、爾より身を取りて、地上の者と見らる。我等が審判の時に慈憐を得んことを絶えず彼に祈り給へ。

<フェオドルのカノン 4調>

イルモス、「我罪の暴風に沈められて」

虚しくして偽なる處神を敬ふ者は己の矜恤者を棄てたり。

聖なる者よ、爾等は肉と血とを吝まず、畏るることなく己を凡の苦に付して、ハリストスを諱まざりき。故にハリストスは爾等に天より榮冠を降し給へり。

然れども我讚美の聲を以て爾に祭を獻げん、我が誓ひし事は爾主に我が救の爲に之を償はん。

我等は行に照されて、致命者の慶賀を迎へ、神に感ぜらるる歌を以て呼ばん、ハリストスの致命者よ、爾等は實に地上に於ける明星なり。

光榮は父と子と聖神に歸す

[三者讚詞] 聖なる三者、無原の神性よ、我は爾唯一の神、唯一の主、三位なる父、子、及び聖神、生れざる者、生れし者、出づる者、常に同一にして永在なる主を讚榮す。

今も、何時も世々にアミン

[生神女讚詞] 嗚呼福たる神の聘女よ、如何にして爾は夫なく生みて、先の如く童貞女に止まりたる。蓋爾は神を生み給へり、畏るべき奇跡や。求む、爾を歌ふ者の救はれんことを祈り給へ。

我等の神よ、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す。(或は句、神よ、爾は爾の聖所に於て嚴なり)

[致命者讚詞] 至榮なる致命者よ、爾等は己の百體の斬らるるを見て、血の流を楽しめり。求む、熱切に我等の爲に主に祈り給へ。

句、彼等の靈は福に居らん。

我を地より造り、我を生かし、我に復地に還らんことを命ぜし主よ、爾が受けし諸僕を

安ぜしめて、死の滅亡より救ひ給へ。

(詠) (イルモス) 我罪の暴風に沈められて、鯨の腹に閉さるるが如く、預言者と偕に爾に呼ぶ、主よ、我が生命を淪滅より引き上げて、我を救ひ給へ。

第6歌頌



我罪の暴風に沈められて、鯨の腹に閉ざさるるが
ごとく、預言者と共になんじに呼ぶ、主よ、
我が生命をほろびより引きあげて、我を救ひたまえ。

[小連禱]

輔祭 我等復又安和にして主に捧らん、 (詠) 主憐めよ
輔祭 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救ひ憐み護れよ、 (詠) 主憐めよ
輔祭 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、
諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の
生命を以て、ハリストス神に委託せん、 (詠) 主爾に
司祭 蓋爾は我等の神なり、我等光榮を爾父と子と聖神[°]に獻ず、今も何時も世に、
(詠) 「アミン」

[コンダク] (詠) ハリストスよ、爾が諸僕の靈を諸聖人と偕に、疾も悲も歎もなく、
惟終なき生命の在る處に安ぜしめ給へ。」

死者のコンダク 6調



ハリストスよ、なんじが僕婢のたましいを、
諸聖人とともに、やまいもかなしみも
なげきもなく、おわりなきいのちの
あるところに、やすんぜしめたまえ、

第7歌頌

イルモス、「黄金の偶像に伏拝せざりしアウラアムの少者は、黄金が坩堝に於ける如く、火の爐に鍊られ、光れる宮に在るが如く、楽しみて歌へり、我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。」(楽譜なし)

主我が先祖の神よ、爾は崇め讃められ、世々に尊まれ、讃め揚げらる、

朽つべき肉體の裸にせらるに因りて神聖なる不朽を衣せられたる光明なる受難者よ、爾等は我等の爲に不朽なる童貞女より肉體を受けし主の前に今立ち給ふ。故に惡に因りて裸體と爲りたる我に聖にせられし衣を衣せ給へ。

爾の光榮にして聖なる名も崇め讃められ、世々に尊まれ、讃め揚げらる。

節制を以て生を送りし受難者の會よ、爾等は己の途に於て勇ましくハリストスを傳へしに因りて、今榮冠を冠りて、其實座の前に立ち、諸天使と偕に靈智なる樂を享くる者として、我等を礙なく節制の途を趨らん爲に堅め給へ。

爾は聖なる爾の光榮の殿に崇め讃められ、世々に尊まれ、讃め揚げらる。

神よ、爾の聖なる致命者の祈禱に由りて、信に於て寝りし爾の諸僕を樂園の住者と爲し、之に靈智なる光を獲しめて、絶えず爾に呼ばしめ給へ、我が先祖の神は崇め讃めらる。

ヘルウィムに坐し、淵を鑑みる者よ、爾は崇め讃められ、世々に尊まれ、讃め揚げらる。

〔生神女讃詞〕童貞女よ、我等爾獨善なる者に祈る、我等惡者と爲りし者を善者と爲し、熱切にハリストス、性の至善なる主に、我等が善を爲して節制の時を終へんことを祈り給へ、蓋我等歌ふ、我が先祖の神は崇め讃めらる。

又、イルモス、「山の上にモイセイと語りて」

爾は光榮なる爾の國の寶座に崇め讃められ、世々に尊まれ、讃め揚げらる。

爾の衆聖者を偉大なる者と爲して、之を奇跡に由りて世界に奇異なる者と爲しし主、我が先祖の神よ、爾は世々に崇め讃めらる。

爾は天の穹蒼に崇め讃められ、世々に尊まれ、讃め揚げらる。

ハリストスの致命者よ、爾等は種種の苦を経て、膝をワアルの前に屈むるを肯ぜずして、神より光榮の冠を受け給へり。

光榮は父と子と聖神に帰す

〔三者讃詞〕唯一にして三者、伏拝せらるる神性、父、子、及び聖神、我が先祖の神よ、爾を歌ふ者を護り給へ。

今も何時も世々にアミン

〔生神女讃詞〕童貞女母、至りて光明なる少女、獨神の前に轉達者なる女宰よ、我等の救はれんことを絶えず祈り給へ。

句、地上の聖人と爾の奇異なる者とは、我専ら之を慕ふ。

〔致命者讃詞〕致命者よ、爾等は不死の王の爲に戦ひて、彼に於ける完全なる信を證して、彼の爲に己の血を流し給へり。

句、主よ、爾が選び近づけし者は福なり。

[死者の讃詞] 主我が先祖の神よ、暫時の生命より移しし爾の信なる諸僕を爾の生命の光の流るる所に入れ給へ。

(詠) (イルモス)、山の上にモイセイと語りて、棘の中に童貞の形象を顯しし我が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

第7歌頌



山の上にモイセイとかたりて、^{いばら}棘の中に ^{かたち}童貞の形象を顯しし
我が先祖の ^{かみ}かみよ、爾は 崇め 讃めらる。

第8歌頌

(イルモス) 「主よ、ヘルワィム・セラフィム等は火焰の中に爾の前に立ち、造物は皆爾に美しき歌を歌ふ、人々よ、唯一の造成主ハリストスを歌ひ、崇め、萬世に讃め揚げよ」(楽譜なし)

天の諸の鳥と、野獸と、一切の家畜は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

ハリストスの大名なる受難者、神に於て尊き者よ、彼に奉る爾の大なる祈禱を以て我等衆爾の記憶を歌ふ者を大なる罪及び彼處の苦より救ひ給へ。

人の諸子と、イスライリ民は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。

ハリストス神の選びたる實に堅固なる聖軍、致命者の會よ、爾等の聖なる祈禱を以て、此の齋の聖なる日に於て我等の智慧と心とを聖にし給へ。

主の司祭と、主の諸僕は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。

主ハリストスよ、凡そ信に於て受けし者を苦しむる蟲と、切齒と、外の幽暗より脱れしめて、彼等を爾の顔の光の世世に輝く處に入れ給へ。

諸神と諸聖人の靈、諸義人と心の謙卑なる者は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

[生神女讃詞] 潔き生神女よ、我等ハリストスの尊き十字架を見て、心より之に伏拜せし者に、爾が主宰に奉る祈禱を以て諸慾より潔められし者として、尊き苦をも見るを得しめ給へ。

アナニヤ、アザリヤ、ミサイルは主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

嗚呼善なる貿易や、ハリストスの聖にせられし致命者よ、爾等は死を以て生を獲、火と劍、嚴寒と猛獸を聊も畏れずして呼べり、主を歌ひて、彼を萬世に讃め揚げよ。

主の諸使徒、預言者、致命者は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

ハリストスの致命者よ、上には天使の品位、下には我等地上の者は爾の驚くべき苦と爾の勇敢なる功とを讃美して、主を崇め讃め、彼を歌ひて、萬世に讃め揚ぐ。

我等主なる父と子と聖神[°]とを崇め讃めん、

[三者讃詞] 我は爾光、三一の生命、父と子、及び出づる神、惟一の神性、三位を尊み、惟一の神を歌頌し、爾主を崇め讃め、歌ひて萬世に讃め揚ぐ。

今も何時も世世に、「アミン」。

[生神女讃詞] 無玷至浄なる雌鴿よ、地に生るる者は誰か爾を歌はざらん、蓋爾は我等の爲に大なる光、生命の富たるイイスス救世主を生み給へり。我等彼を主として崇め讃め、歌ひて萬世に讃め揚ぐ。

句、神よ、爾は爾の聖所に於て嚴なり。

致命者よ、我等は爾等の奇異なる功勞を讃榮して、爾等を戰の馳場の爲に堅めし恩主及び神を崇め讃め、彼に伏拜して、萬世に讃め揚ぐ。

句、彼等の靈は福に居らん。

死及び生の主神よ、敬虔の心を抱きて移りし者を起して、彼處に義人等の居所に入れて、爾主を崇め讃め、歌ひて萬世に讃め揚ぐるを得しめ給へ。

我等主を讃め、崇め、伏し拜みて、世世に歌ひ讃めん。

(詠) (イルモス) 地と凡そ其上に在る者、海と諸の泉、諸天の天、光と暗、嚴寒と暑、人の諸子と司祭等とは主を崇め讃めて、彼を世世に讃め揚げよ。

第8歌頌

我等神を讃め崇め伏しおがみて、世世にうたい讃めん。

地と凡そ其の上に在るもの、海と諸々の泉、諸天の天、

光と暗、嚴寒とあつさ、人の諸子と司祭等とは主を

崇め讃めて、かれを世世に讃めあげよ。

司祭 生神女光の母を讃歌を以て讃め揚げん。

(詠) [ヘルビムの歌]

我が心は主を崇め、我が靈は神我が救主を悦ぶ。

附唱 ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく榮え、貞操を破らずして神言

を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。

我が心は主を崇め、我が^{たましい}靈は神我が救主を悦ぶ。

附唱 ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え、^{みさお}貞操を破らずして^{なみことば}神言を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。

第1句
我が心は主をあがめ 我が靈は神我が救主を喜こーぶ

附唱
ヘルビムより尊とく セラフィムに並びなくさかえ 貞操を

破らずして神言を生みし 実の生神女たる 爾をあがめ讃む

第2句 その婢の卑しき^{かえり}を願^{よるずよ}み給へり、今より萬世我を福なりと言はん、

→附唱ヘルビムより尊く

第3句 ^{ちから}権能を持ち給へるものは、我が為に大なる事を為せり、其の名は聖なり、其の憐れみは世々 ^{おご}彼を畏るる者に臨まん

→附唱ヘルビムより尊く

第4句 其の肘の力を表して、心の驕れるものを散らし給へり、→附唱ヘルビムより尊く

第5句 権ある者を位より斥け、卑しき者を上げ、飢うる者を善に飽かせ、富める者をむなしく帰らせ給へり。 →附唱ヘルビムより尊く

第6句 其の僕、イスライリ^いを納れて、我が先祖に告げしが如く、アウラアムと其の裔を世々に憐れむ事を記憶し給へり、 →附唱ヘルビムより尊く

第9歌頌

イルモス、「権能者は我に大なる事を成せり、其の名は聖なり、其矜恤は世々彼を畏るる者に臨まん」(楽譜なし)

其聖なる約、即我が祖アウラアムに矢ひたる誓を記念せん、

動なき星たるハリストスの受難者よ、我等の思を照して、神の光明潔浄なる望を行はん爲に堅め給へ。

謂ふ、我等に我が諸敵の手より救はれし後、懼なく、彼の前に在りて、聖を以て、義を以て、生涯彼に事へしめんと。

ハリストスの勇敢なる受難者よ、爾等は諸敵を殺す劍と見らる。求む、爾等の轉達を以

て我等を兇悪者の矢より脱れしめ給へ。

子よ、爾も至上者の預言者と称へられん、

洪恩なる主よ、信を以て我等より爾萬有の造成者及び至仁なる主に移りし爾の諸僕をアウラムの懷に安ぜしめ給へ。

蓋主の面前に行きて其道を備へ、彼の民に、其救は即諸罪の赦にして、我が神の矜恤に因ることを知らしめん。

[生神女讃詞] 智慧に超えて肉體にて神を生みし童貞女よ、我が肉體の亂れたる動揺を殺せ、光の潔き雲よ、我が意念に光照を與へ給へ。

又、イルモス、「ハリストス我が救世主」

此の矜恤に因りて、東旭は上より我等に臨めり、幽暗と死の蔭とに坐する者を照し、

至りて讚美たる致命者よ、我等皆爾の聖にせられし苦の功績を見て、之を奇とし、爾等の記憶を歌頌して、ハリストスを崇め讃む。

我等の足を平安の道に向はしめん為なり。

受難者は苦を受けて互に言へり、我等肉體を惜まずして、來りて、ハリストスの爲に死なん、萬世に絶えず喜びて生きん爲なり。

光榮は父と子と聖神に帰す

[三者讃詞] 嗚呼唯一の神性の三者、生れざる父、生れたる子、及び出づる神よ、爾を歌頌する者を爾の仁慈を以て害なく護り給へ。

今も何時も世々にアミン

[生神女讃詞] 慶べ、至尊至潔なる者、童貞の譽、母の固、人人の助、世界の喜、我が神の母及び婢なるマリヤよ。

句、地上の聖人と爾の奇異なる者とは、我専ら之を慕ふ。

聖者の會よ、我が祈禱を納れて、我に十字架に接吻するを得しめし如く、救の苦にも伏拜せん爲にハリストスに祈り給へ。

句、主よ、爾が選び近づけし者は福なり。

洪恩なる主よ、爾人を愛する主に移りし者を宥めて恕し、之を選ばれたる者の居處に安ぜしめ給へ、爾は生命及び復活なればなり

(詠) (イルモス) ハリストス我が救世主、爾の諸僕の光榮、信者の榮冠、爾を生みし者の記憶を輝かしし主よ、我等皆爾の仁愛を崇め讃む。

第9歌頌

ハリストス我が 救世主、爾の諸僕の光栄、信者の 栄冠、
 爾を生子し者の記憶を 輝かしし 主よ、
 我等皆爾の仁愛を あがめ讃む。

9 歌頌イルモスに続いて

(詠) [常に福] 常に福にして、全く玷なき生神女、我が神の母なる爾を讚美するは真に当
 たれり、ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え、貞操を破らずして神言を
 生子し、実の生神女たる爾を崇め讃む。

[光耀歌へ]